

## 令和元年度大津町子ども・子育て会議 会議録

- 開催日時 令和元年10月21日（月）15：00～
- 会場 大津町役場2階「大会議室」
- 出席委員 田中会長 安浪副会長 備海委員 村上委員 高山委員  
藤原委員 太田委員 鹿瀬島委員 江口委員 堀委員  
野山委員 斎藤委員（計12名）
- 欠席委員 藤本委員 野田委員 工藤委員
- 事務局 市原教育部長、大隈子育て支援課長、大塚子育て支援係長、犬飼主事
- コンサル 株式会社サーベイリサーチセンター南九州事務所 栗原主任
  
- 次第
  1. 開会
  2. 委託状交付
  3. 各委員紹介、子育て支援課職員紹介
  4. 議題
    - (1) 地域子ども・子育て支援事業状況について
    - (2) 第2回大津町子ども・子育て支援事業計画の概要について
    - (3) 推計人口について
    - (4) 教育・保育提供区域の設定について
    - (5) 子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」について
    - (6) その他
  5. 閉会

## ■議題

### (1) 地域子ども・子育て支援事業状況について

#### 【事務局より説明】

[会長] 今、事務局のほうから、27年度から31年度までの事業の実施状況等について説明がありましたが、何かご質問等があればよろしくお願ひいたします。

[委員] 乳幼児家庭全戸訪問事業では、かなりの数を訪問されていますが、これは子育て支援センターの保健師と栄養士が全戸を回っているのですか。

[事務局] 子育て支援センターの1階の町健康保険課母子保健係の保健師が訪問しています。

[委員] 生後6カ月目ぐらいに訪問されるのですか。

[事務局] そのあたりの時期に訪問すると思います。

[委員] なぜ聞いたかという、研修で他県に行ったときに、こんにちは赤ちゃん事業をされていました。そのような事業かと思ひ尋ねました。

[事務局] 国の事業で言えば、こんにちは赤ちゃん事業にあたります。

[会長] その他に何かご質問等はありませんか。

[委員] 各事業の昨年度の量の見込みという括弧のところの数が、大体一緒になっていますが、見込みと実際とがずれたりするのが普通じゃないのかなと思います。どうして一緒になっているのかなということ、実際どのぐらいニーズがあって、そのニーズに全部応えられているのかということあたりを教えてほしいと思います。

[事務局] まず一点目の「量の見込みと確保方策」ですが、こちらはあくまで両方も計画値になりますので、量の見込みはこのぐらい需要があるということで見込みを立てまして、それに対して同数を確保するというのが原則になっています。その確保方策の実際の中身は、各子育て関係の事業でしたら実施箇所数で出てきます。預かり保育とか病後児保育など子育て関係の事業については、現在の実施箇所数でほぼ賄えています、保育と学童は不足している、あるいは不足が見込まれるという状況になっています。

[会長] 実績がその範囲内におさまっておけば、見込みと確保方策は計画どおりという説明ですが、実績の数値は必要だと思います。

[事務局] わかりました。

[会長] その中で、学童保育の量の見込みは801人で確保も801人。実際は31年度の5

月現在で776人なので確保する枠は、実績値からするとあるけども、ただ問題は、それぞれの学校によって偏りがあるということですか。押し並べれば計画値の枠はあるけれど、ぎちぎちにいっぱいのところもあれば、ちょっと空いているところもあるというふうに考えればいいですか。

[事務局] はい。実際の利用者数を次期計画の実績のところに記載をさせていただきたいと思います。

[委員] 保育と学童については、不足している状況があるならば、今後、不足している分を新規に賄えるような計画というのはありますか。

[事務局] 学童は、今後、足りないということが見込まれていますので、町のほうでも確保すべく、事業者と相談をしながら確保を進めていくところでございます。

保育につきましても、各保育園に相談しながら、並行して確保を進めているところでございます。

[委員] 確保できる見込みということですか。

[事務局] 善処したいと思います。計画書に記載していきたいと思います。

[会長] 人口推計でも大分変わってくるので、後で話はあるかとは思いますが、単純に現況ではどうしても学童あたりは、全員が手を挙げてきた場合は足りないので、どの数値で持っていくかというのが、第二期の計画を立てるときの大事なところだと思います。そういう意味で、今までの状況と、今後どうするのかという部分について話を聞いていただいて、意見をいただければと思います。

[委員] 病後児保育事業を見ると、量の見込みは1,000人ということで、年間延人数で1,000人は確保しているということになります。そうすると、1カ所で1,000人を受け入れるだけの確保が本当にできているのかどうかというのが気になります。

あと、このアンケートを見たときに、病後児保育を何とかしてほしいというのが結構多いですね。急に頼めないとか、近くにないからだめだということで、意見もすてきなものが多かったので、少しギャップがあるなと思って気になっています。

[事務局] まず、病後児保育の実施箇所数ですが、1カ所で量の確保が1,000人となっています。定員が4人でそれに年間の開所日数250日掛けまして1,000人ということで確保の方策として年間延人数の数字が出ております。

今、委員からご指摘がありましたように、アンケート結果を見ると、病児保育のところの項目もそうですが、自由意見で病児保育への意見が多くありました。実際、あおぞら保育園の病児保育施設あいあいさんなど病児保育をされているところもあり、通常の日であれば、ある程度受け入れが可能ですが、実際に病気がはやる時期になると、キャパを超えてしまいます。ただ、そのときに受け入れてもらえないと、キャパが足りな

ったというところで意見が出てくるかと思しますので、町としても、このあたりは少し考慮しないといけないのかなというところですか。アンケート結果を見ていただくと自由記述のところ、特に病児保育に対するいろんな意見がありましたので、そのあたりは次期計画にどう反映させていくか検討したいと思えます。

[委員] 妊婦健康診査と乳児家庭全戸訪問事業では、計画の値が前回の事業計画の値だと思えます。この二つは、実際に生まれた赤ちゃんの数がないと、例えば量の見込みが422人で平成30年度の実績が349人だったら、事業の実施ができていないという感じになりますが、多分生まれている赤ちゃんの数が違うと思えます。その人数も記載することでデータとして信頼できるものになると思えますので、それも後で加えてください。

[事務局] 実際に生まれた対象者数も記載します。

[会長] 計画では、結構出生数が多いと見ていたが、実際はほぼ受けていると考えれば、出生数が見込みより少なかったということなのですか。

[事務局] 計画では、出生の見込み、人口推計がかなり多めでした。ただ、推計がかなり多めで、保育の量・率というのは、そこまで増えないだろうということでしたが、実際の現状を見ると、子どもはそこまで増えていないけども、保育の利用者数は増えていると結果になります。定員は確保できていませんが、結果として、保育の対象見込みとしては、近い数字にはなっているかと思えますが、人口推計自体は、前計画はかなり甘めであったということになります。

[会長] 前回の計画では、出生数はちょっと多めに見ていて、保育の量というのはそんなにないだろうと思っていたら、逆転していたということですか。

[事務局] 利用率の動きが、ここ5年で1歳児あたりを見るとかなり増加しています。

[会長] そちら辺は反省事項として、次の計画をどういうふうに見ていくかというのが非常に重要なところだと思います。

[委員] 国の政策が1億総活躍なので、やっぱりどうしても預けてでも働きたいという方が増えてきています。5年前に見込めるかというとなかなか難しいかもしれません。

[会長] そうですね。どうしても女性の方にも働いてもらおうというのが、国の大きな流れでもあるものですからね。

## アンケート結果の補足説明

### 【事務局説明】

[会長] 事務局から補足の説明もありましたけれども、実施状況等について、何かご質

問等があればお願いいたします。

[会長] 今、事務局から説明があったとおり、分析というのはある程度詳しくして、次回は、こういうことだから次期の計画にはこういうふうに反映させていきたいというものがないと次の計画をどういうふうにしてやるかというのは皆さん方もなかなかわかりませんので、そこら辺を煮詰めていただければ、ありがたいと思いました。続けて説明されても、なかなかぴんと来ない点もあったかと思います。要は今の計画が実績も踏まえてどのような状況で、アンケートではこういう結果が出ていると、なおかつ難しいのは、今、事務局から話があったように、アンケートではそんなにありませんが、実際無償化が始まったから預けるとか、幼稚園の延長保育を希望するとか、そういうのをどういうふうに捉えるかで変わってきますので、そこら辺も含めて、次回はもう少し詳しく資料等もよろしくお願いをしたいと思います。

待機児童の状況も、10月時点で23名という数字も上がっておりますし、本当に全ての園で頑張っって受け入れをしていただいているという実情もあるという説明がありましたので、そこら辺も頭に入れていただければと思います。

また後ほど何かご質問等があれば、さかのぼっても結構ですので、次の説明をお願いいたします。

## (2) 第2期大津町子ども・子育て支援事業計画の概要について

### 【事務局説明】

[会長] 次期の計画の骨子というか、どういう形でやりたいかということで、国のほうも大分この5年間で変わってきているということです。でも、基本的にはこの計画を基本に、いろんな見込みを算定してやりなさいということです。

あとは貧困対策とか、子育て新プランで女性の就業率8割ということで、保育の受け皿等も国のほうはやっていくという方針でありますので、そこら辺に基づいて次の計画もきちんと立てていきたいということでございます。

それと、具体的な支援事業計画と4ページ、5ページに書いてありますけれども、基本理念をどういう形にするとか、基本目標をどういうものにするかという部分について、何か今ご意見等があればお聞きしたいと思います。次回は案が出てくるのですか。

[事務局] 基本的には振興総合計画を踏まえたところで、同じような形で考えていますが、案はお示しさせていただきたいと思います。

[会長] 事務局とすれば、この振興総合計画に基づいたところの基本方針とか目標とか、理念等も含めて考えたいということですが、ご意見等はございませんか。

この計画分については、エンゼルプランとかそういう前の計画から引き継いできているということですか。

[事務局] 前の計画を継ぐ形で設定されていると思います。

[会長] その都度一生懸命考えてこられた理念とか基本目標であるとは思いますが、少しずつ変えていく必要もあるのではないかとということで、事務局のほうから説明がありましたとおり、振興総合計画を立てておりますので、それと連動した形でこちらのほうも立てていきたいという事務局案でございます。

この部分について、何かご意見とか、次回の会議の前に言っておいたほうがいいのかというご意見があれば、事務局のほうに言っていただければ、こういうご意見があったのでこういう形でとかいうふうにとできると思います。今日急には難しいかと思いますが、特にこういうことは入れてほしいとかそういうのがあれば、遠慮なく事務局のほうに話をしていただければ結構だと思いますので、よろしくお願ひいたします。

### (3) 推計人口について

#### 【事務局説明】

[会長] 今、事務局のほうから説明がありましたが、町全体の人口は今後も伸びていくだろうという予定でございます。これは社人研も同じ形ですけども、難しいのは、社人研はちょっと古かったですよね、たしか数字の発表がありましたけど。

[事務局] はい。

[会長] ですので、発表があった時点で、町の人口がそれを上回っているという事態もありましたので、直近の10年の数字を使ってコーホート変化率という推計方法でやらどうかということですよ。

ですので、直近の10年の数字を使ったパターン1の場合、町全体でこれぐらいになり、結構校区によっては人口が増えたところもありますので、そこら辺を考慮すると、下のほうの直近の5年の数字を使ったパターン2のほうに変わるとということで、事務局の案とすれば、校区ごとにそれぞれ状況が違うので、10年スパンぐらいの大きな変動で見たほうがいいのかという校区もあれば、5年間、短期の今の動きで推計したほうがいいのかという2パターンがあるということでした。町の中心部の大津、室、美咲野については、直近の動きである程度推計し、その周囲の部分については、長いスパンで、10年間ぐらいの変動の中で捉えてはどうかと、説明としてはそういうことでしたよね。

そういう形でやりたいということですので、一律にするとどういうふうにしようかと事務局も大分悩んだそうですが、校区ごとに出して、その校区もそれぞれ直近の5年間の分でやる、その5年間の分も単純にそれでいいかというのは、また分析をしたいということでした。

それと、先ほど言いましたとおり、周囲の部分については、元々人数が少ないものですから、何名かこの5年間のうちに抜けていると急にがたがたと減っていくということで、それもどうかということでしたので、この部分については長期で見たいという

ことでした。

ただ、この数字は後のほうに出てきます量の見込みとか、0歳から就学前まで全部影響してきますし、学童の見込みもどういうふうにするのかと非常に変わってきますので、どういう形で推計するのかと非常に難しいですが、基本的には今言いましたような形でやっていきたいということでございます。

その点について、何かご質問とかご意見等はございますか。

[委員] 室小の校区あたりが大津北中学校の校区でもあるので、いっぱい家が建っているなど見ていて思います。地震の影響で、こちらに家を建てて引っ越してこられているというような状況が反映されているのかなと思います。そこら辺のデータというのはこの中に入っているのですか。

[事務局] その辺をどう考慮すべきか検討しましたが、アパートが建ったから住宅地がこれに代わるとか、美咲野ぐらいの大規模になるなら考慮すべき話になりますが、今度の5年間の推計として、今、町のほうで出している数字としては、今までの傾向を踏まえた上で、一番増えている数字というか、室小学校区については増加率が高い数字のところ推計をしたいと考えていますが、あくまで過去の変化率を使わせていただいているところです。

[委員] 護川小校区では、環境アセスメントの調査か何かがあっっていて、聞いたら、道路の計画があるみたいで、先々そういうのができると、相当家が增えるということあたりも予測できるのかなと思います。未来でどんなふうになっているかということはある程度想定した形でやっていかないと、過去のデータだけでやるのとは全然違うという状況になってしまうのではないかというのが心配されます。道路とか大規模開発とか、そういうある程度の見込みがあるのだったら、そのことを想定した次の見込みをしておかないと、現実に近いものとは大分かけ離れたというのは気になります。

[会長] これは教育委員会のほうでも、当然、学級数とかに関係あるということで、大津小とかでやっていますが、そういう中で、新たに宅地開発とか、それがどれだけ影響しているのかというのを、ある程度推測も交えてやったところでは、そんなにどんどん増えていくというわけではないと。やっぱり出ていく方も当然いらっしゃるから、そこでこぼこをやっていると、よほど大規模な開発があれば別ですけども、そんなには今後という分析はあっているという話は聞きました。

ですので、今後、美咲野みたいな大きなところとか、ちょっと心配していますのは、神戸生糸跡とか、ああいうところが大規模な開発がされれば、抜本的に考えなくてはいけないなど。あとの部分については、そんなに格段に人口推計に大きな影響を及ぼすまでは至っていないのではないかという報告は聞いております。

ただ、委員のおっしゃるとおり、そこら辺もある程度考えてしないと、菊陽とかと違って線引きしていませんので、本当にどこに宅地開発があるか、ぼっと出てくる場合も

あるので、そこら辺は考えていきたいなと思っております。

[委員] 開発の話があったので、これで大丈夫かなと思いました。

[委員] それでも菊陽とかのように町全体で盛り上げていかないと思います。

[委員] 子育てを充実させると多分人が帰ってくると思います。なので、人口予測をベースにするよりは、充実した子育て支援の町だということを計画してアピールすると、人口が増えるし、まちも活性化するというのがあるので、過去のデータだけじゃなくて、いかに充実させるかということをベースに計画をつくったほうが後々の町のためになるかと思います。

[委員] 光が見えてきたと思います。

[会長] では、次をお願いします。

#### (4) 教育・保育提供区域の設定について

##### 【事務局説明】

[会長] この提供区域というのは、要はニーズ量を推計するときに、学童は校区ごとにニーズ量も全部推計するけども、そのほかの町内全域というのは全体で考えますということですか。

[事務局] はい。

[会長] この点について何かありませんか。学童は校区ごと、あとは町内全域でニーズ量等も考えていきたいということでございます。

(「なし」と呼ぶ者あり)

[会長] では、続いて5番目ですかね。お願いいたします。

#### (5) 子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」について

##### 【事務局説明】

[会長] 今後のニーズ量の計算の仕方は冒頭に説明がありましたが、実際の数値等について、パターン1、2で説明がありましたとおり、人口推計のところでどれをとるかで大分変わってくるというふうな話がありましたので、具体的にはどの数字をとって持ってくれば、こういうふうになるというのは若干変わってくるかとは思いますが、現時点でこういう数字を見て、ご意見等があればよろしくお願いいたします。

[委員] ニーズ調査の補正をしていただいて、今の利用率に近いような形で計算していただいてありがたいが、0歳児のところだけ、10月時点という話がありました。そもそ



もこの事業計画は、定員ベースが基本だと思います。ということは、逆に言えば、0歳児は4月時点を考えたときに定員を割るという考え方になってしまいます。一応保育園というのは年間平均120%までは、職員と面積を維持していれば定員をオーバーしてもいいという決まりがあるので、やっぱり4月時点で定員は満たないと、なかなか定例的には、特にゼロ歳児は職員が赤ちゃん3人に対して1人要るので、なかなかそこだけ増えていくから10月と言われても、そしたら前半は経営的に赤字になってしまうのではないかという話になってしまいます。やはり0歳も4月ベースで考えてもらった上で、運用の中では120%までは大丈夫なので0歳の受け入れが可能というような状態を、現場としてお願いをしたいなと思います。

[事務局] 一旦、4月ベースでつくらせていただいて、その範囲内ということですね。そこは他の方はどうでしょうか。

[会長] 当然、0歳児さんの4月1日の人数は少ないですよ。

[委員] 0歳児は大体倍になります。例えば、0歳児が9人いれば4月当初はいいですけど、10月には18人になります。それを、真ん中の10月ぐらいでということは、前半は経営できないので、逆にいうと保育士を確保できないので、後で増やしてと言われても、「いやいや、保育士見つからないですよ」という話になってしまいます。やっぱりある程度の余力をもらっておかないと、後で入りたいと言われても、採用かけてすぐに保育士さんが来てくれるわけでもないで、やはり4月の時点で ある程度の園児数を見越して計算してもらって、増える分は定員を上回るころでの受け入れというところをお願いしたいですね。

[事務局] 0歳児のところを、去年の例を説明させていただくと、4月時点での入所者数が85名、10月の時点の時点では141名、そこから保育士さんを確保していただいて、最終的には160名ぐらいの受け入れをしていただいているところでございます。ただ、ここは受け入れをしていただいた分で、実際希望したけど入れなかったという方が、0歳児でいくと47名ぐらいになります。0歳児をどうするかというのが、事務局としても非常に難しい問題だと考えています。

[委員] ただ、例えばあと40名受け入れたら、200名になるじゃないですか。それは、3月31日に200名いた0歳児が、4月1日になったら85名に戻るということになります。保育士さんはどうするのかという話になります。確かに保護者からは、待機児童はもちろんないほうがいいと言われますが、今の国の制度では0歳児3人に対して1人、1、2歳児は6人に対して1人というギャップがあるので、そのギャップがある中で完全に待機児をなくすということは、200から85に戻さないといけないので、保育士の首を切るということになります。その分の差額を町なりに補助していただくなら全然構わないですけど、それもないと、今度は保育士のなり手がいないという話になって、1年でど

うせ首を切られるという、そんな仕事は誰もしません。やっぱりそこは、全体的なところを考えてもらって、どこに合わせるかというのを考えていただきたいなと思います。

[会長] 推計のどこに数字を持っていくか、そこら辺は次回の宿題という形で、うまい解決策というのは難しい気もいたしますけども、現時点ではそういう問題があるということですね。

[事務局] そこは検討させていただきたいと思います。

[委員] 学校にもなかなか来ることができない子がいて、とても厳しい環境から学校に来ているような状況があるのですが、その子が今年登校できるようになりました。どうしてかという、ここにある子育ての短期のショートステイというのができるようになって、ほとんど毎日学校に来るような状況になったので、これはとてもいい制度だと思います。ぜひ、こういう制度があるということを、いろんな方、保護者の方に知っていただくということが大事で、そのことをまずやらないといけないだろうし、じゃあ、町全体の子どもたちのために何をしなくてはいけないかといったときには、今の状況だけでこれを見ても、ショートステイの数がずっとこの状況だとあまり増えないところで算出してあります。そうではなく、やっぱり町としては、こういう子どもたちを育てたいから、この事業には力を入れてお金をかけたいというビジョンが先にあって、じゃあここを充実させるためにどういう計画を立てるかということが先にあるような気がします。現状は、確かにいろんな課題があるから、それを解決するためにはこんな施策を打とうということがあります。じゃあ、それだったらここにこんなお金をかけたい、ここに予算をつけようということが出てくると思うので、そこのビジョンをしっかり持った上でこの形を出していかないと今と同じことを継続してやるということの連続になってしまうと思います。町の子育て支援を充実させるという視点から、何をやるかということの尾根をはっきり持った上で、じゃあここは前よりもっとお金をかけて充実させましょうとか、そういう計画になってほしいなというふうに思います。よろしくをお願いします。

[事務局] 検討させていただきます。ありがとうございます。

[会長] ほかにないですか。

[委員] 利用者支援事業についてちょっとお尋ねです。

15ページのところでいうと、利用者支援事業の下の段の「利用実績等を勘案して」のところの1番になりますが、今のところは現状の実施箇所あたりでいくと、現状はゼロなので、これを実績で考えていったときに、どういうふうに利用者支援事業というのを考えていこうとされるのかというところがちょっとわかりません。もしかすると、いろんなニーズがとか、全体のいろんな関係機関との調整とか、いろんなヒアリングがあると思うので、もちろん必要な事業だと思いますが、どういうふうに町としてこの事業を

考えていくのかというところや方向性があれば教えていただきたいと思います。

[事務局] 町としてできていないところがありますが、これは国の施策である子育て世代包括支援センターというのを町としても整備しなさいということで、国のほうでは令和2年度中がひとつの目安として上げられています。町のほうは新庁舎の関係もありますので、新庁舎にあわせてするということで、準備を進める必要があると考えていますが、利用者支援事業というのがこちらにも絡んできますので、その点は、近隣を勉強させていただきながら、目標値もそうですけど、中身自体も詰めていきたいというふうに考えているところです。

[委員] わかりました。ありがとうございます。

[会長] その子育て包括支援センターというのは、設置しなくてはいけないということですか。

[事務局] 設置しなくてはいけないというところで、県での勉強会とかはありますが、ある意味、規模の大きい自治体は設置のめどが立っているところもありますが、小規模のところについては、そもそもつくる必要があるのという意見もあります。

[会長] 考えようによっては、先ほど委員から意見があったように、ある程度ビジョンに基づいてやっていくという、子育ての町で頑張らないといけないというのを入れていけないといけないし、そういうふうにしていったほうがいいと思います。現状であまりしていないから、他のところがしているからそれでというのは全然話が先に進まないと思います。事業計画だから、やっぱり子育てのためにこういうふうに今後5年間でやっていきますというのであれば、そういう形で取り組んでいきますとしたほうがいいと思います。

ちょっと時間も経っていますが、せつかくの機会ですので、そのほかに何かございませんか。

[委員] 子どもの地域包括ケアシステムを全世代でやりたいということで、国は挙げていますよね。そういった中で、私も子ども・子育てって絶対必要だと思いますし、他の委員から話があったように、ビジョンがあって、そこからどういう子どもを育てたいかという、例えば温子知新にしても、これはもともと理念だと思います。だから、そういった中で、「こういうことを大津町は売りにしている」ということを出させていただいて、一つ問題は、それを知っているお母さん方いわゆる子育て世代が少ないということじゃないかと思います。

だから、施策をされるときに、例えば、若いお母さんたちはSNSを使うのが非常に得意なので、少し具体的にどういうふうにそういうのを浸透させていくのかといったあたりまで具体的に書き加えていただくと、ただ施策として立てたではなくて、ほんとうに町民の中に浸透していくのではないかと思います。そこまで細やかに計画を立ててい

ただくといいのかなと思いました。

熊本市は結構、LINEを利用して、子育て世代にどんどん入ってきます。夜中でもいろんなニュースが入ってくるので、申し込んでみようとか、そういった形で結構浸透してきているので、そういうのも考えていただくとおもしろいかなと思いました。

[委員] 中学校のジュニアリーダー夢議会で、そこで子どもたちなりの提案がありました。何かというと、大津町の危険なところの情報をSNSで集めて、地図をホームページで公開するといいのではないかと。本当に子どもらしいいいアイデアで、大人が調べて回るよりそっちのほうが、子どもたちに危ないところの情報が確実に入ってきて、みんなで共有できると思います。そういうことをすると、ほんとうにみんなに積極的にかわってもらえるかなというのがあります。

子どもの発想で、バスを1台借りて、行政の出張所を地域で回したらいいのではないかと、ほんとうにすごくいいアイデアだなと。建物建てるとなったら何億とお金がかかるけど、バスを1台借りて回るのだったらいろんなサービスがそこでできます。

実際、東北のある地方では、商店街が非常にさびれたので、軽トラで農家の方に売りに来てもらって朝市をしたら、ものすごい数の軽トラがシャッター街のところに集まって、すごく活気のあるまちになっているということもあります。そういう発想を変えた新しいサービスとか展開をすると、いろんなことが可能になると思います。そういうアイデアは何人が会議をしてするよりは、いろんなところからアイデアをもらって、そのことを実現させていくような仕組みをつくっておいたほうが、より身近で実効性のある効果的なことができると思います。

この計画にも、そういうことがもしできるなら、地域の方のアイデアをどんどん借りてきて、実現するためのスタッフだとか、仲間が集まって実現させていくようなことができれば、さらにいいのかなと思います。大変かと思いますが、よろしく願います。

[委員] さっきの0歳児の問題ですが、やっぱり育休の延長ができる社会づくりをしていかないと多分解決しない話で、女性は社会進出して、今、全体的には労働者不足なので、企業側も雇用したい。そういった中で出産した後に、いつでも預けられるというのは理想ですけど、今の仕組みで言えば年度末は入れなくなってしまうというのが現状ですよね。やっぱり年度末の子たちは、3月末まで育休を延長してくれれば、1歳児では入れるのですよ。

なので、そこをやっぱり企業側にも理解してもらって、3カ月、4カ月育休を延長してもらえれば、保育士も不安定な職にならないし、子どもも保護者のもとにいられるし、会社側もちょっと遅くなるけどまた職員が戻ってきてくれるという循環になります。やっぱり保育園ばかりをお願いするという社会じゃなくて、みんなが少しずつ負担を分け合ってよい社会にしていかないと、少子化もとまらないだろうし、どんどん小さくじり貧になってしまうので、その辺も含めたところで会社側の理解も得たりしながら、広報

活動も含めてしていただけるといいかなと思います。

[会長] ありがとうございます。

全般的なことでも、さっき聞き忘れたとかそういうことでも結構ですので、そのほかに何かありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

[会長] そのほか、直接担当に意見とか質問等があれば、どんどん聞いてもらって結構でございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

## (6) その他

### 【[事務局]説明】

[会長] 今後のスケジュールですが、あと3回あるということですが、少しでも早く会議していただいて、先ほど言っていたニーズ量なんかも、パターン1、パターン2とかで、結構変わってきますし、今、意見がありましたとおりに、それをPRするのも大事ではないかとかそういうものもあります。1月、2月と続きますが、次の素案をつくるのは早目によろしくお願ひしたいと思います。

そのほかに何かご意見ないですかね。

(「なし」と呼ぶ者あり)

[会長] なければ、事務局にお返しいたします。

## 5. 閉会

[事務局] ありがとうございました。

これをもちまして、大津町子ども・子育て会議を閉会したいと思います。

皆さん、ご起立をお願いいたします。

お疲れさまでした。